

大雪山の火山活動解説資料（令和7年11月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①～③、図3）

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上100m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図2-④）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図4）

8月24日から28日に実施したGNSS繰り返し観測では、火山活動の活発化を示すと考えられる特段の変化は認められませんでした。



図1 大雪山 西側から見た旭岳の状況（忠別湖東監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和7年12月分）は令和8年1月13日に発表する予定です。

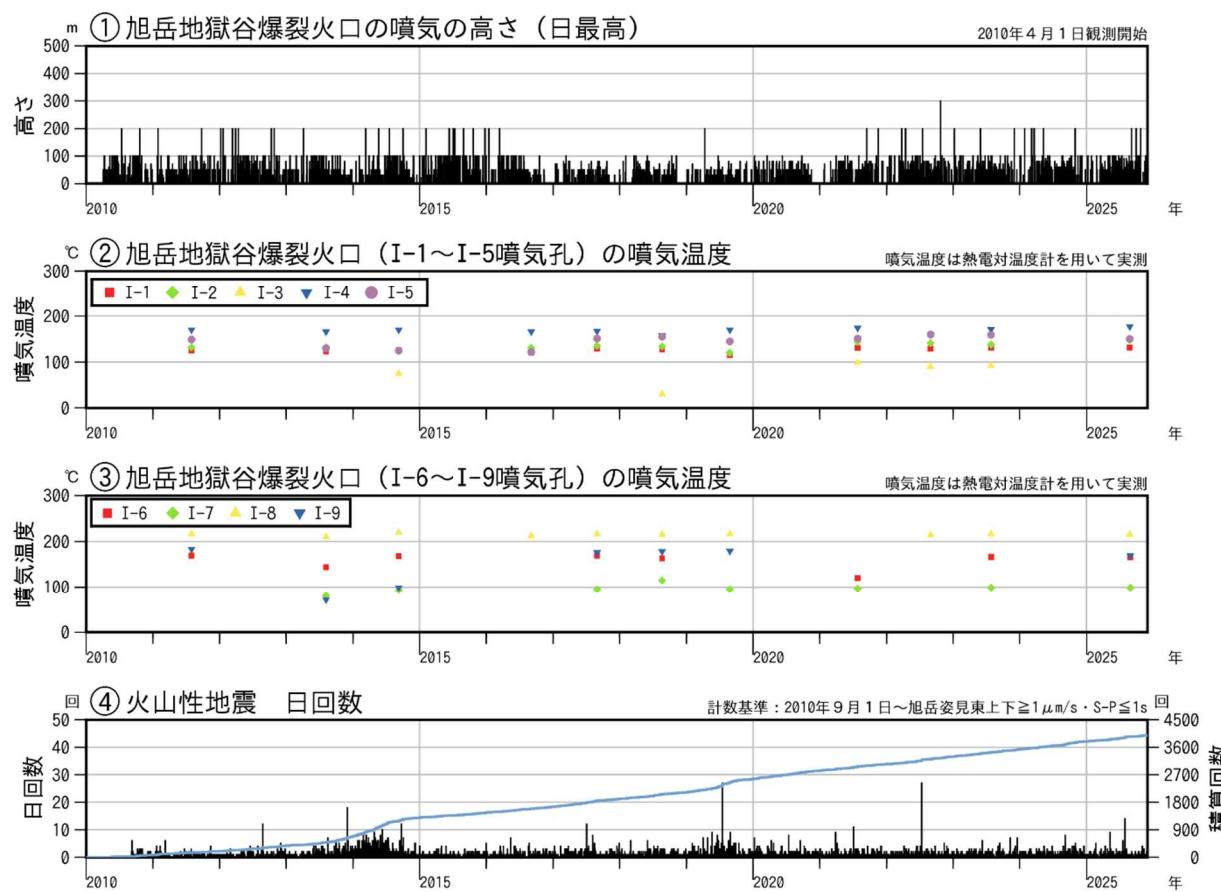


図2 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2025年11月）

②③の噴気温度の測定位置は、図3（噴気孔の位置図）を参照してください。

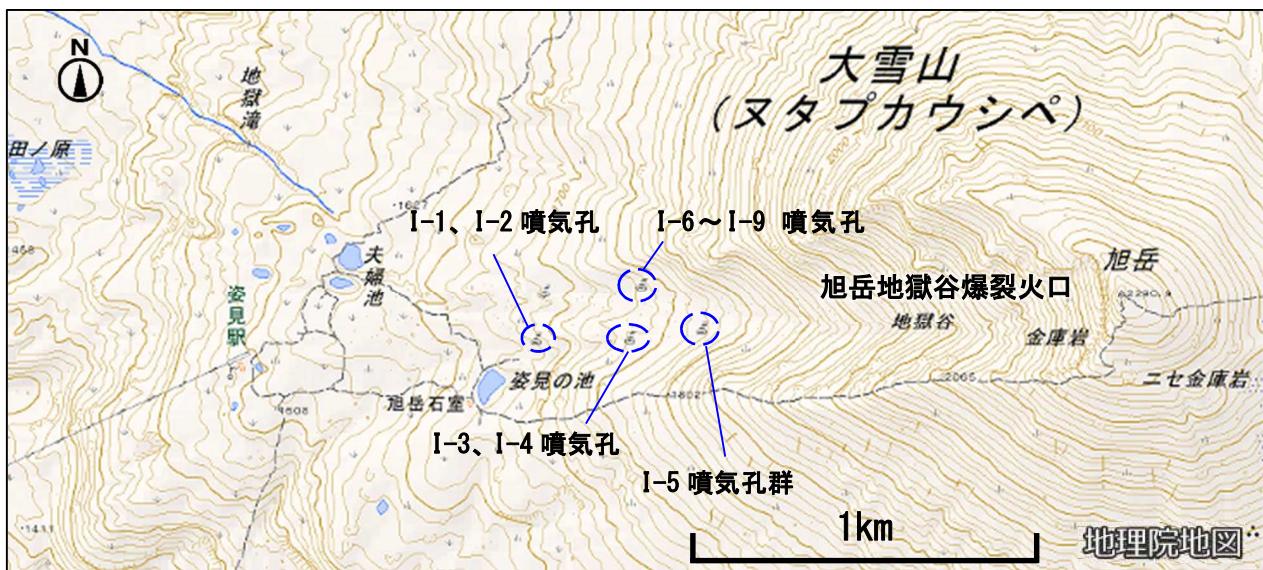


図3 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口内の噴気孔の位置（破線囲み）

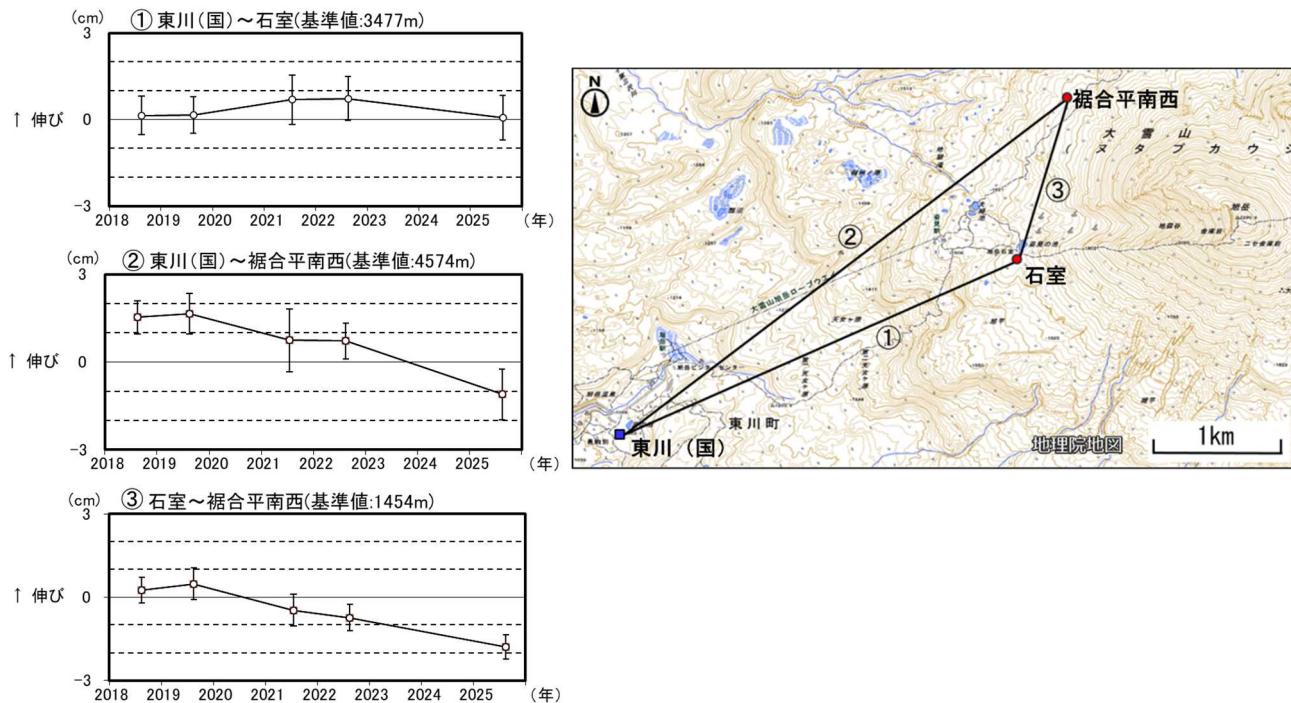


図4 大雪山 GNSS繰り返し観測による基線長変化及び観測点配置図（2018年8月～2025年8月）

GNSS基線①～③は観測点配置図の①～③に対応しています。

東川(国)は国土地理院の連続観測点です。

- ・前回の観測（2022年8月30日～9月2日）と比べて、火山活動の活発化の可能性を示唆する特段の変化は認められませんでした。
- ・基線②③では裾合平南西の局所的な動きにより基線長の短縮が認められていると考えられます。

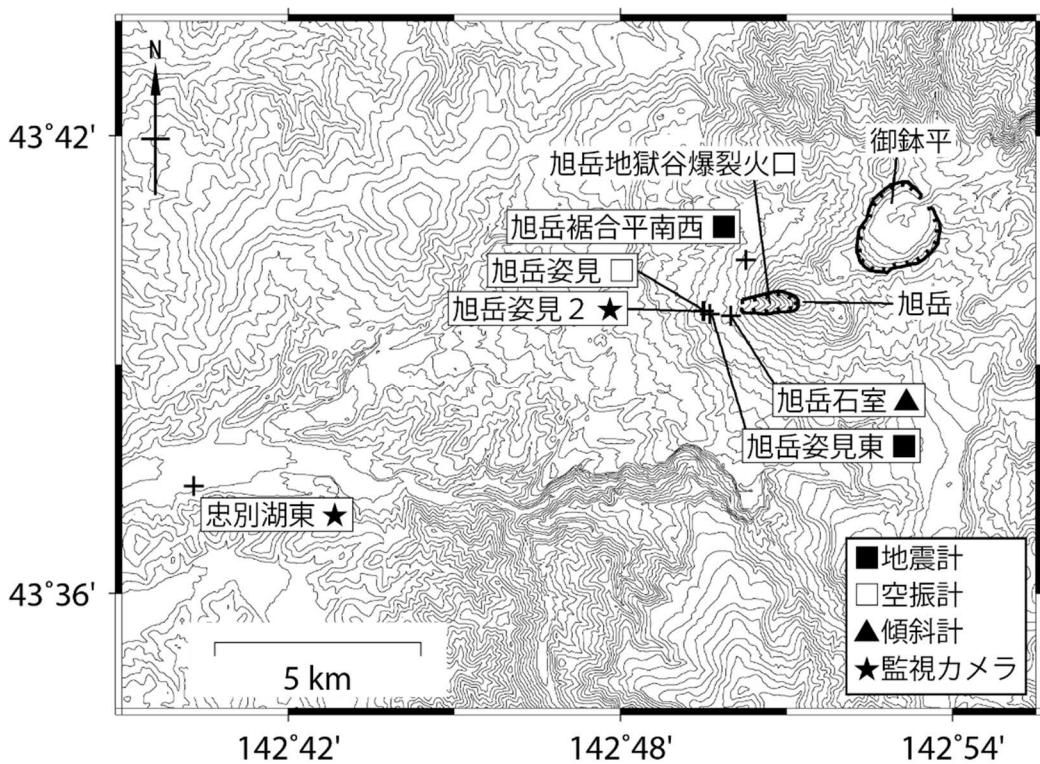


図5 大雪山 観測点配置図

十印は観測点の位置を示します。